



▲高安供養塔



▲供養塔の前で手を合わせる高安義英社長



▲高安供養塔で法要



▲高野山供養について語る高安義英社長



▲本堂での朝の勤行

## 高野山の合祀法要によって受け継がれる先人のおもいやり。

5月9日(金)・10日(土)、高野山にある高安物故者の供養塔および清浄心院本堂にて慰霊法要を行いました。今号ではその様子をお伝えします。

五月晴れの好天に恵まれたこの日、高安義英社長をはじめとする一行は大阪・難波駅から南海電車、ケーブルカー、バスを乗り継いで高野山へ。開眼法要※1以来、長年お世話になっている宿坊「清浄心院」にご挨拶に伺った後、すぐに奥の院にある高安物故者の供養塔へ向かいました。

奥の院は、弘法大師御廟※2のある高野山の聖地。老杉に囲まれた約2kmの参道は、皇室、戦国大名、企業など20万基以上もの供養塔や墓、祈念碑が並び、とても厳かな雰囲気です。高安の供養塔は御廟にほど近い場所にあります。高安良雄初代社長の「少しでもお大師様の近くで物故者の供養を」という思いと、この幽明の地を選定してくださった清浄心院の住職・水原暁栄老師のご厚意により、昭和19年に建立されました。戦時中のことでトラックもなく、牛車に石材を積んで山頂まで運んだといいます。建

立時には、昭和18年に亡くなった高安德治郎(高安の前身「高安合資会社」の創業者)と、太平洋戦争で戦死した10名の社員を供養致しました。翌年からは霊供養とともに、会社発展と安全を毎年祈願しています。本年の合祀者は3名。計374名の御霊の供養をさせていただきました。

法要を終え、奥の院を参拝した後は、宿坊である清浄心院へ。心尽くしの精進料理をいただきながら物故者の方々に偲び、改めて高野山供養の契機や意義について語り合いました。

2日めは早朝6時30分より、本堂にて朝の勤行に参列。厨子の中央には高安の位牌と過去帳※3が置かれ、僧侶の読経に続いて宿泊者全員(観光客含む)が順次、仏前に線香を手向け、拝礼しました。

今年も、2日間にわたる高安の高野山慰霊法要を無事執り行

うことができました。私たちはこの法要を通じて創業者、社員、協力会社など、高安を支えてくださった物故者様に感謝と報恩の念を捧げています。また、同時に諸先輩方が歩んでこられた足跡を振り返り、会社の理念を次世代につないでいきたいと考えています。高安にとって大切なこの行事をみなさまにご理解いただき、末永く続けていけることを願ってやみません。

### 高安の高野山法要の目的

- 物故者の慰霊
- 安全祈願
- 先人に対する感謝
- 関係先に対する感謝
- 事業の発展祈願

### 高野山について

高野山(こうやさん)は、和歌山県伊都郡高野町にある標高約1,000mの山々の総称です。平安時代に、弘法大師空海が修行の場として開いた地で、山内には高野山真言宗総本山金剛峯寺をはじめ117の寺院が建立されています。平成16年(2004年)にユネスコの世界文化遺産に登録されたこともあり、近年は海外からの観光客も増えました。

### 解説

- ※1…開眼法要(かいげんほうよう)  
仏像・仏画・仏壇・墓などの完成の際に営まれる法要のこと。  
※2…弘法大師御廟(こうぼうだいしごびょう)  
弘法大師(=空海)が御入定されている聖地。  
※3…過去帳(かこちょう)  
故人の戒名・俗名・死亡年月日・享年などを記した帳簿。